

## 拡がるインドの成長センター

～ 西ベンガル州で政権交代 ～

- (1) 今春の西ベンガル州議会選挙で、1977年以来34年間に互り政権を維持してきた共産党左派率いる左翼戦線が敗北（図表1）。代わって草の根国民会議派を中心とする統一進歩同盟が大きく躍進。
- (2) 予兆は2年前のインド下院選挙（図表2）。同州選出議員数をみると、左翼戦線は34議席から15議席に半減。一方、国民会議派と草の根国民会議派は合計7議席から25議席に大幅増。今回の州議会選挙で左翼戦線の退潮と統一進歩同盟の躍進が一段と進行。
- (3) 背景には、ムンバイを州都とするマハラシュトラ州やデリー首都圏の中心地のみならず、カルナタカ州やマディヤ・プラデシュ州をはじめ中心地以外のエリアでも近年、経済発展が相次ぐなか（図表3）、停滞が続く西ベンガル州経済に対する州民の不満増大。左翼政権は企業誘致に消極的で、州内に雇用の受け皿が無いなか、多くの州民が他州に流出。
- (4) もっとも、草の根国民会議派のママタ・バナジー党首は08年、同州でのタタ自動車の小型自動車ナノの工場建設に当たり、同社の土地収用に対して強硬に反対。一部では政権交代によって同州政府が経済成長指向型に路線転換するか疑問視する向きも。しかし、すでに選挙戦時から財界との関係修復に向けた取り組み始動。デリーとムンバイ、チェンナイと並び、インドの黄金の四角形を形成するコルコタ都市圏が成長エリアに変貌する展開が視野に。

（図表1）西ベンガル州議会選挙

	(人)		
	2006年 ①	11年 ②	増減 ②-①
左翼戦線	233	63	▲170
インド共産党左派	175	40	▲135
全インド前進同盟	23	11	▲12
革命社会党	20	7	▲13
インド共産党	9	2	▲7
その他	6	3	▲3
統一進歩同盟	54	226	+172
草の根国民会議派	29	184	+155
国民会議派	21	42	+21
その他	4	0	▲4
その他	6	5	▲1

（図表2）インド下院選挙（2009年）

	(人)	
	議席数	改選前差
統一進歩同盟	262	+80
国民会議派	206	+61
草の根国民会議派	19	+17
ドラヴィダ進歩党	18	+2
国民民主同盟	159	▲17
インド人民党	116	▲22
シヴ・セナー	11	▲1
統一国民進歩同盟	79	▲30
大衆社会党	21	+2
インド共産党左派	16	▲27
ビジュジャナタダル	14	+3
その他	43	▲33
社会主義党	23	▲13
全国ジャナタ・ダル	4	▲20

（図表3）主要州・地域別電力消費量（前年比）と人口

